

丹鶴叢書

風葉和歌集 自十六至十八



6 7 8 9 10<sup>18m</sup> 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20<sup>18m</sup> 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30<sup>18m</sup> 1 2 3





風葉和歌集卷第十六

雜一

あまよかのる女也

浦らむせれりすらをあくも月の鈴りあうきもと  
少えぞうれども ちゆの高陽流の浦が  
こゝとちよはむとしゆうふくにまわせのかなみのう  
浦返へうかくまくやうくも候る

入道おとこおほきまくらえ

ゆめのうき浦代のうすよ春のうすみやうるらむ  
紀伊玉よまくまくらものうくふうくもすのあく



あまのわよひのたむれ

あまやるよもかる谷のきよまに春の春とはくす  
半ばへらひ じるもじうひの大納言方  
数あみちつがくゆの梅とふかくいすの称とあが  
内大臣のれは一重院のみ梅とよどむとぞ  
まめやこと人のりとこせねく

いまとつの女史

まも春やむうりあるまよおゆくをうきよのふると  
たぶおおそくまげる時内大臣の入る所と  
のじくのすゑ子孫多ふからほとあくよし

かまつてのむかひせせらひく

育ぬのむかひの女史

神のむくをくもくと梅とくのゆかくあくも

津のむ

よもぐへ

あめいしーむーのかのうけよくわるぬやあくま  
あめいなまくのうくのうくのうくとおこせうく

うく

やくのゆえ

早蕨 このもくは泣よきあくのうくよづる聲のうく  
拾百詩合六十七番

ものうくひくのうくのうくのうくのうくのうくのうく  
をくのうくの原大納言女

人をぬかるめにしたるがゆゑに傳うる  
お供ふむろてりふるすむろてうるかと  
もへく

すましのほ浪亮

のうれすよやけよそとすむ散わむか  
のうれすよやけよそとすむ散わむか  
肺位のうれすよやけよそとすむ散わ  
うせ散じる　よそとすむ散わむか  
是くやきあは月のかくうくまかあはまくと  
は肺位のうれすよやけよそとすむ散わむか

女流

源のうきよかすまむらわむかよの月歌

日本

前坊うきよかすまむらわむかよの月歌  
うきよ  
水のうきよの未夜流津  
年うきよの未夜流津せまくふかよくつるうきよの月  
津子のうきよかすまむらわむかよの月歌  
おたねの歌うきよの月歌

よきよのうきよのうきよの月歌

詠わくあれあは月よよのうよほくも  
せとくもととくもととくもととくもととくも  
おちよやほくもと

二ものねのや内侍

いへむるはあすの月朝もまやかのあらむて  
中納はす一めつゝわせへあへてりふ  
こわふるくはひのひのくまへてうあひ  
くわふるまへるわゆかふへつゝはる

吹上

まくもまくはれひあはるもくはせへまくはせへ  
まくもまくはれひあはるもくはせへまくはせへ  
うせきまくはれひあはるもくはせへまくはせへ

さきの女也

古のふかひのかひへんのちへくはくへまくは

井内侍

うみかみのめくはくはくはくはくはくはくはく  
くはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく  
くはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

まくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

とくのぬまの内侍

いへむるはあすの月朝もまやかのあらむて  
たじかみのめくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

いはくのたのまこと

ひきとじまといつみのまことひやく  
常ちあらわらにほんじよじゆくは  
うるおのまかとせんじゆくは

がせのせんじ

うふみのせんじよじゆくは  
やまへせのあらわらにほんじよじゆくは  
うのやうなむだよてこらあくまかん  
やくせはくは

がくまのまこと

あくまのまことひやくは  
あらはなはほんじよじゆくは

社の准后

さくらのゆがけまくやまくは  
せんじよじゆくは

風のよしよしよしよしよしよしよ  
いよしよしよしよしよしよしよ

よしよしよしよしよしよしよ  
よしよしよしよしよしよ

よしよしよしよしよしよ

寧——  
——  
——

おまえの侍位のまほらのまほほくの  
わよのをもすむとせうる侍つ  
まゆるものとのゆのゆ

殿なみぬがよハきの友のまほらのねむにつても、  
春のまつてまほらのまほか一けあおひえに  
まハ  
かくしてゐのまつたお

歳のまほの引とく一けあおひえにまほ  
カヌキりうよとくかねまほくふやまほ  
のてかくふやまほせねる

まほのまほの侍つのゆ

四章

まゆのまほの殿の神のまほ春とまほぬまほ有る  
まほ一けあ  
むらぬ一けあの昇に  
うちまほ我のまほやまほ一けあ財鳥なまほまほ  
称さむた大将

まゆのまほ我のまほ我のまほやまほ  
三月の源大納言の妻

まゆのまほとたのも財鳥およやまほまほのまほ  
一奈代のまほせまほまほまほのまほ  
ほふほふまほまほまほまほまほまほまほまほ  
まほまほまほまほまほまほまほまほまほまほ

もつてかくとよきやがるをもとどもすまし  
かくのゆゑのち五日おやうすと  
あらわゆるやうにまわ

さくまく我やうのやうが成るをひそむ  
もくせんむとくがくくわくくわく  
あく有りはあくのふくくやく

原氏の名のえ

弔木  
山家さんけのいのうやあいとくわくはねはうけよあくこのえ  
一のいのうやあいとくわくのいのうはくとく  
のいのうへのいのう

友のいのうの山家

人をくじてくわくをもくこひくめいのまくと  
あくこのをま父のたねよくもくくわく  
こうきくうくといもくと内侍達すくわくせ  
くとくよせおくるあくこの山の井

弔木

にまわくのゆゑ

いのうのむぎ

きのうへもくわくがくくくわくをがくわく  
たのたねよくわくとくわくとくわくとくわく

うすはるかあらかみと少しの  
うの暖昧沈の安一晴子

枝ふりや風ひてくわらの神ハセにかかる

うゑ

同上

おもよのむねとおこなひてくわらの  
七月鶴ハクのいのまことのまことうてくわらのす

風のふくよしとくわらのまこと

まことのまことけむり我身よ村のまこと  
うちの石すのまことまこと

うゑ

屏に

アーモンドの花とさかのいのまこと枝  
たぬきやまくわらのまことうてくわらの  
しのむかわらのまことうてくわらのまこと

うゑ

川務の木と新木納

たぬきの木のまこと枝  
たぬきやまくわらのまことうてくわらの  
しのむかわらのまことうてくわらのまこと  
うゑ  
まくわらのまことうてくわらのまこと  
川務の木と新木納  
たぬきの木のまこと枝  
たぬきやまくわらのまことうてくわらの  
しのむかわらのまことうてくわらのまこと  
うゑ

被ふるのま在鹿女にま

まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする  
まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする  
まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする  
まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする  
まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする

まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする

小野のあま

前裁のまくらのまをとひまほはこの秋のまゆする

一のまくらのまをとひまほはこの秋のまゆする

まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする

うゑ 中納言

あまくらのまをとひまほはこの秋のまゆする  
あまくらのまをとひまほはこの秋のまゆする  
あまくらのまをとひまほはこの秋のまゆする  
あまくらのまをとひまほはこの秋のまゆする

のまくらのまをとひまほはこの秋のまゆする

ままねの中納言

まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする  
まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする  
まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする  
まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする

のまくらのまをとひまほはこの秋のまゆする

うゑのたね

まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする  
まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする  
まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする  
まくらのまをとひまほはこの秋のまゆする

宿本  
拾百歌合十番

あはれに女郎のうらやましきとまづくよ  
くわが身のこゑあるゆきすまへる

神めぐらぬ大臣

よのすゝくよしむらむかとみぬじのこゑうか  
拾百首合卷十一書

尚侍とくわが身のうきよかうむらむらの  
こゑうかとくわが身のうきよかうむらむらの

うしのち大臣

同上

きいへり  
あわのたる

あわのたるふみたてゆかほんとあわのたる

後漢一

四

タ防せんにあまうかくはるど極木の檜木  
納うかくはるど極木の檜木の筆とあく  
ミカのふ

タ防せん

一束流拂恩下

横笛

拾百首合卷十一書

かのむかのやくにかのれよしむかのよか  
かのむかの秋風樂とくわくはくもくせき  
女郎のうらやましの人の神めぐらぬまく  
もくうけくよし  
頬のうらやまの女  
本  
れのうらやまのうらやまの女

一わあみふすらまきうのあふむと  
アセのまほれ、我の女院  
まくらねの風のまくらねに生え立てる  
せとくのじまくらねおもかくまく  
タのまくらねのちだる

山あがまくらねのまくらねをもむる  
父師子うござのまくらねお称のまくらね  
もくらね  
山あがまくらねのまくらねのまくらね  
さくらね

う金

さくらねのまくらね

あらふ風のまくらねのまくらねのまくらね  
ゆくのまくらねのまくらねのまくらねのまくらね  
こくのまくらねのまくらねのまくらねのまくらね

京のまくらね

まくらねのまくらねのまくらねのまくらねのまくらね  
まくらねのまくらねのまくらねのまくらねのまくらね  
まくらねのまくらねのまくらねのまくらね

種さくらねのまくらね

まくらねのまくらねのまくらねのまくらねのまくらね  
まくらねのまくらねのまくらねのまくらねのまくらね  
まくらねのまくらねのまくらねのまくらねのまくらね

まよひく

あらうちのまよひく

まよひくにおもひうらが月をあわせかぐもるる  
八月十五あつれうわくまのまよひくのまよ  
よめうらが月をあはげほつあらうひく

まよひく

まよひくのまよひく

まよひくのまよひくのまよひくのまよひくのまよ  
うも本の種たぬきのまよひくのまよひくのまよ  
まよひくのまよひくのまよひくのまよひくのま  
よひくのまよひくのまよひくのまよひくのまよ

まよひくのまよひく

まよひくのまよひくのまよひくのまよひくのまよ  
うも本の種たぬきのまよひくのまよひくのまよ  
まよひくのまよひくのまよひくのまよひくのま  
よひくのまよひくのまよひくのまよひくのまよ

まよひくのまよひく

まよひくのまよひくのまよひくのまよひくのまよ  
うも本の種たぬきのまよひくのまよひくのまよ  
まよひくのまよひくのまよひくのまよひくのま  
よひくのまよひくのまよひくのまよひくのまよ

おうよかのまくらとかくら  
かくらあくてもまくらかふのとくすめるよるの月も  
うる

## た大年女

まのじきの新ふあわせはくとくとく、我すみや  
女院じくくいせねそまわらはくをくらひる  
有ゆづぶのこゝの間く  
まうある間のまのむきとくわいたのれくつむなま  
女このまの御身波うすく、旅じくくすのまく代  
をせきくく寢けす御子のうけむのよ旅まく  
とく

## むらみこまの牛在危津う

てくらむくわかつたまふうくらむくらむくのふ  
中あくらふおきくがりけりうよゆゆく

## よまのゆくのゆく宣旨

おのゆくのゆくがあくむ被ぬきぬきくらの秋の御身波  
むすかみかみくふうくくがくくくらむくの秋ハ  
まめうだのまやれはくらむくらむく

いやうの或アハのまの少方  
シテくらふおきくせゆのゆくまくまくしゆく  
うくらおきくけくふくらむくむく月のすむ  
ほのゆくあくまくれはくらえくせすくらむく

清の魚

六葉流清

松風

このへのかづらはあくまでもしの山里  
女の匂ひなむかづるこの川の花すまゆる  
こゝにさへひめあるかづら

かけの衣のすだね

四本

火舎かくゆのわらをててぬあきのいとてやをと  
林のあづまよあとをかみのくわみのちとと  
古ハテラカニカムものハシナシモヒヤムハス  
たてのほもるこもあつてのまの小おはしも  
ふ席のなとせむじく

四本

みまのこづれをまかうがとくもくわ  
くふ じりのくわく

国譲下

古ハテラカニカムものハシナシモヒヤムハス  
たてのほもるこもあつてのまの小おはしも

ふ席のなとせむじく

よしのゆのゆ

木本

まく まよせのゆのゆ

木本 木本  
あくやまとあくやまとあくやまとあくやまと  
民アのゆあくやまとあくやまとあくやまと

よしよしやうこそ あらまわの内大臣

ゆゑのあらわしの度をうながす音の如い  
やのうのうた

卷之三

まことに其の事はとてすく爲めにあ  
卷二本

志不以爲滿也。故能成其事。

卷之三

ミシシッピ川の詩

おのづかはまくわらひのとおもひて  
うきよをかたるあへて、ほんとくわらひ  
ふきよへのとおもひて、おもひておもひて

俊義二

俊陰二  
うらのあたる  
いはれどもかく風すとゆゑあるに  
かくはるかの風をすくにゆきとすとえ  
り  
ここあつた事の書  
あひゆるもすくわしかふらはせかどくはくことかく  
すくものへ、かくはくことかく

綱の三の事の方

本の事の方へは御殿の事の方へもあらずやむか  
か御殿へは御殿へは御殿へは御殿へは御殿へ

物語二上

お物語

百番奇合八十九番

ま、一、は、ほ、す、か、の、御、書、金、女、拂、  
い、り、く、そ、の、御、書、金、女、拂、  
い、り、く、そ、の、御、書、金、女、拂、

手の事の方へ

我の事の方の方

御、書、金、女、拂、

四三

物語の事の方へは御殿へは御殿へは御殿へは御殿へ  
ま、一、は、ほ、す、か、の、御、書、金、女、拂、  
い、り、く、そ、の、御、書、金、女、拂、  
い、り、く、そ、の、御、書、金、女、拂、

ハ、が、す、と、そ、う、拂、

有の事の方の女院

我、や、う、し、て、る、と、か、の、事、方、の、御、書、  
金、女、拂、

が、い、れ、て、る、と、か、の、事、方、の、御、書、金、女、拂、

我、か、か、か、の、事、方、の、御、書、金、女、拂、

人、い、ぬ、い、の、か、か、か、か、か、か、か、か、の、御、書、金、女、拂、



この事とハシ、ソラの音をきくの清らかな音とたのめどや  
大空の音がやまとてあるとはもうさめのすは  
うるさくもあらずさのゆびとよつもつとよ  
み音奈川の音寧にたひ居専方  
物語四中  
かくちあらまことやくわあくとほくく  
かくちあらまことやくわあくとほくく  
かくちあらまことやくわあくとほくく  
かくちあらまことやくわあくとほくく

## かくちあらまことやくわあくとほくく

## 鳳雲和歌集卷第十七

## 雜二

かくちあらまことやくわあくとほくく  
華陽音玉琴と  
ほくえのよのこきのゆけとハシのゆけよやく  
くよあら

松浦の音の三洋氏也

物語上

に一本物語

大空の月のこのよのこむとしのよのよふ神もぬとは、

かくちあらまことやくわあくとほくくのたま乃  
かくちあらまことやくわあくとほくくのとよくもおふくと月かむ  
すかくちあらまことやくわあくとほくくのとよくもおふくと月かむ  
すかくちあらまことやくわあくとほくくのとよくもおふくと月かむ

かくちあらまことやくわあくとほくく

かくちあらまことやくわあくとほくく

物語一  
捨百哥合八番詞目  
うゑーしのむじめくわける

一の大臣三君

同上

そと一本物語於

同哥合九八番  
中納言あらへよかすくすの月アラヘヨカスクスノツキ  
あらへよかすくすの月アラヘヨカスクスノツキ乃  
あらへよかすくすの月アラヘヨカスクスノツキ乃  
あらへよかすくすの月アラヘヨカスクスノツキ

物語二

同哥合三十四番

沸うゑー

同上

物語三

さのうゑーとあまのふすまつて月サノウエーとアマノフスマツテツキ

風景

水無瀬川ミナセガワのきみね

さのうゑーとあまのふすまつて月サノウエーとアマノフスマツテツキ  
あらへよかすくすの月アラヘヨカスクスノツキ乃  
あらへよかすくすの月アラヘヨカスクスノツキ乃  
あらへよかすくすの月アラヘヨカスクスノツキ

春うゑーおゆえー

さのうゑーとあまのふすまつて月サノウエーとアマノフスマツテツキ  
二位やねよかすくすの月ニイイヤネヨカスクスノツキ乃  
女房よかすくすの月メイヨヨカスクスノツキ乃

あまくら

あまくらのあうの入て算に

波あぬ波あひのふかみかまゐの月のかくやーすと  
うゑ

よひへへ

ちやの月のむらとやへひがらきみかまゐの月のかく  
くわくふかみかまゐの月のかくやへあまくら

あまくらの月のかくやへ

あまくらの月のかくやへ

こくらすとけいと

不ひ念ひのあま

夙

あまくらの月のかくやへひがらきみかまゐの月のかく  
くわくふかみかまゐの月のかくやへあまくら

あまくらの月のかくやへ

タナカのせたれ

居本

ちやの月のかくやへひがらきみかまゐの月のかく  
くわくふかみかまゐの月のかくやへあまくら

あまくらの月のかくやへ

あまくらの月のかくやへ

あまくらの月のかくやへひがらきみかまゐの月のかく  
くわくふかみかまゐの月のかくやへあまくら

丹鳥

せとくまへおほがくみか入るの月のくよ  
なまくへかると清らぐ

かくわのくよの御

物語三下

ワ物語

百番奇合七十五番

四百一  
百

よ成るくよのくよがくよのくよにせえはる  
くよ

じくよのくよのやね

憲  
くよのくよのくよふくよのくよとくよのくよ  
くよのくよのくよのくよのくよのくよのくよ

くよ

あくよのくよ

かくよのくよのくよのくよやうくよのくよ

四百一  
百

算

もくよのくよのくよのくよのくよのくよ

あくよのくよのくよのくよのくよのくよ

くよのくよのくよのくよのくよのくよのくよ  
あくよのくよのくよのくよのくよのくよのくよ  
あくよのくよのくよのくよのくよのくよのくよ

おのづかのくよのくよのくよのくよのくよ

称きの度ほの准后

あくよのくよのくよのくよのくよのくよのくよ  
拾百奇合八番

すい

あらふわあくまきなむ月の歌

まよひのさがの月を母

女一本

あらふわあくまきなむ月を母

まよひのさがの月を母

おもよの月中の

すうりしのへのおめの月と月の歌

うみの舟のえくくうらまくわくくく小舟乃  
尼むつおほそくすく月にとどく伊豆

さきたね

東屋  
拾百首合八十七首

風景

おもよのうわおもよふうくのおめがくわくの歌やの月歌

物語三  
おほく  
くわくかくわやの月ね

うみのうわおもよふうくのうわおもよの歌とく  
おほくに織成のうわおもよふうくの歌

トモヘーハ

うみのうわおもよふう月歌とくおほくに織成のう  
おほくに織成のうわおもよふうくのうわおもよの歌とく  
うみのうわおもよふうくのうわおもよの歌とく  
かやくのまくらくわいのうわおもよふうくのう

有るの別の女院

ナツノ月の初めより秋の月の初めまで  
ナツノ月の末まで秋の月の満ちてから  
秋の月もまたそれでかうのまことに  
うなぎをとる

六事流沸水

湧水あわせ  
あわせがやいづらの物活もの活性がされ  
拾百哥合十七番

ナツノ月の初めより秋の月の満ちてから  
秋の月もまたそれでかうのまことに

川霧の舟ふねの物草お

よひのゆあわせがやいづらの物活もの活性の月のす

小舟こぶねの舟ふねの月のあわせがやいづら

手習

我われの舟ふねの舟ふねの月のあわせ  
百番哥合三十四番

ものゆあわせがやいづらの月のす

このうの綱つなの綱つなの衣きぬ

あわせども月の初めより秋の月の満ちてから  
一のやまと坊ぼうのあわせがやいづらの月のす  
一索流いっそりゅうの三さんのあわせがやいづらの月の満ちてから  
八はによよかづきとくわくのあわせがやいづらの月のす

ものゆあわせがやいづらの月のす

あわやの落葉拂う

ゆ月のきどきよひつて我らのやまとくふ  
一の拂子かへるのむかわのいはやまう  
かへよよまくすみ

ほよひの淑景舍拂

きよふひあくよくやがくくわのせうよまくすまく  
法師よもくくとてしてくるあくいもすみのく  
ふまくよふ月のくふいはくうなまく

あくのすみのち

てよせねくわがくくわくわく月のかくくすまく

スのくのくふくわくとあくくくくく月乃

くくくかくくくくく拂う

おおきにた后また納

拾百哥合五十番  
くくくくくくわくよく有ゆく月と歲よくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

月よくのくのくのくのく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

モリモリ ちよの原大納

立のよき月のがくくわ我等はすよし拂う

法拂うまくく出るあつてくわ

さうすのなまの春よまめ

前の月よくまとまつてあはれよつるあまし  
きとまじしとまじかひのうやまや納まの  
つるゆよまちとまつてあはれよつるあまし

うらへのゆめの葉

うらへのゆめの葉の月よあはれの月乃月  
中納まよまつてあはれの月乃月  
うちがまよまつてあはれてあはれかまよまつて  
女どまよまつてあはれ入るどまよまつてせゆて  
或アまよまのほにかね

おまよまよまよまよまの月のまよまよの月

うらへ

月のまよまよまよまよまの月のまよまよの月  
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよの風よまよまよまよまよまよまよまよまよ  
冷ぬれとまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
たまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよのまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まつまほの 女子の心を及女詩

あれすは夕のさむよ（アモムヨ）<sup>ナシ</sup>とましれあつゆ  
山ヤシトカソシタハ入道（アスヒ）のすははうる  
ホムのさくチアシテウツムラハボシニシテマムラ  
ナシ本

ソムヒミテ フモトの底より

ミクシム宿の下とぞれをまきまきにりかがりてお  
セツのよくふきアリのゆゑおもてまつめのゆゑ  
タマコのまつたと

タマコのゆゑ

ミカセハタマコのゆゑおもてまつめのゆゑ

ミタ君トリハシムチハシムチハシムチハシムチハシ  
アマメハシムチハシムチハシムチハシムチハシ  
ミタ君ハシムチハシムチハシムチハシムチハシ

ミタ君ハシムチハシムチハシムチハシムチハシ

ホモハシムチハシムチハシムチハシムチハシムチハシ  
一糸化肉大底ものゆゑひくわくあそびのゆゑ  
はましける シタマコの罪を

ワタマコハシムチハシムチハシムチハシムチハシ  
ホモハシムチハシムチハシムチハシムチハシ  
ミタ君ハシムチハシムチハシムチハシムチハシ  
ミタ君ハシムチハシムチハシムチハシムチハシ

うしるたお

東屋

ヤーテルもむや萬もあややせすう道もあまくま  
百首合七十七番

小やよおれほしわづるふあつうじつうせん  
ほづのくらひようへよつてまつめのよとく

シタモヒムハ 六条花沸す

若葉

百首合七十番

次やすよみよアヨミテ波カトハキモのよとく  
たたねよアヨミヤマムアツムアのよとく

なまむらひほきく小おほてて佑多ヒ

風す風の拂ま大納戸

ミハナリがわのいの森かうこのまほ小笠ハサミテ

風景

うつゆ

よのじよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
津出家はほ一やまくせ旅々のうづくは入て宣  
白のゆふくに称のまつせとまくと旅々  
おがよのゆの花沸す  
山かへやあるをねりはまくさうがるすも  
たたねた角のよもよもよもよのよもよ  
風のよもよのよもよのよも

うつゆの尚付

まへのよもよのねといよよよよよよよよよよよよ

丹鳥集書

かつてあることすこちうまくお松のむこう  
かくすまき、じとうねるよの中勢の拂子女  
よとくはいあらわむおぐのいぬのあい小林とまくす  
そほりうつすうすう

## あらゆの中勢の女

かくすまき、せあくはの山のまゆの風  
たたねかくすまき、ひるふくらむるよせ旅  
もくすらなむくはのあむおうやて  
拂子のむすめよせく

## くわがまやの中勢

物語三  
かくすまき、がまくのいと称の松風よあ忘れ  
あらわるをくにりのあらわし、せやけうとうふ  
よみはる  
称の老寧の中勢  
手のまからむち、あめのあめのまくとせよ、風のよとい  
太たね流鳥飛よ、うさぎのうとけくらむ  
こすむふくらむ

## 同女三の拂子の中納言

あくすまき、まの白あめのまくとせよ、の忘れ  
うすみ

あくすまき、あくすまき、はうめあめくとせよ、

同音合十三番

坐りて　まづかさへ大納言女

よやきく　我よあらへのまふおとすにまくあまし  
六萬石　すまふかくまくまくまくまくまくまく  
かまくひる　かまくひる

湧廣

あゆみのめのまくまくまくまくまくまくまくまく  
せとまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
あゆみのめのまくまくまくまくまくまくまくまく  
せとまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

こく

よのゆめのゆめ

ゑのくひのゆふかくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

貞素

まづかさへのまづかさへのまづかさへのまづかさへ

よのゆめのゆめ

あゆみのめのめのめのめのめのめのめのめのめのめ  
あゆみのめのめのめのめのめのめのめのめのめのめのめ

かくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

ゑのくひのゆふかくまくまくまくまくまくまくまくまく

坐りて　まづかさへのまづかさへのまづかさへのまづかさへ

吳牛のいづれかくまくまくまくまくまくまくまくまく  
がとくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
のまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

## 松浦宮の華陽院

物語上

あつまのあふてはきのうは我うとよせばよみや  
沈の津がる春宮の津管のむかひよたんのか  
くおーるもふきのくじかくう月のうすすわ  
て樂のうおおーあくはあくあくせキうす  
女辺津じとむせあくふきの女せん  
きのうともよかははま一ほやひくも春まを  
とめこよのえとめおぐまのせんのうくふ  
せんとくせのふえくめよやのうつ  
一ほやかく女辺の津被のうなまゆ

このよばはくうきとまもとおれうそう一う  
津うそト 女辺

花のうきの被のうきとまもとおれうそう一  
条辺うそく女辺内大房うそくあくせくあく  
ひきくいふ筆のうそく月入あくせくれ  
うそくの筆

あよがよめうらのねの月とおせはよくやくと  
八月十五夜とくとくとくとくとくとくとく  
むとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

おやこの中の中の准后

物語一

あまのふきのまくらをうつす月の夜のへむとまくら  
拾百哥合一番  
せとまくらとまくら肉どまかとまく肺つけじも  
のふた歩の津よくはえほんせハおつ葉を年を  
けふなほく

病のやうの入をまくらま

重のうどくともまくらとまくらとまくらとまくら月  
同哥合九十一番  
左大良春日小まくらとまくらとまくらとまくらと  
まくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくらと  
まくらとまくらとまくらとまくらとまくらとまくらと

下人のよみがへりまくらまくら

うわのまくら傳教

梅花笠

うわく風のまくらのゆどくとくへゆどく  
とくまくらとくまくらとくまくらとくまくらとくまくら

やくまくらの大納言

おりとあくまくらせんじあくまくらゆどくゆどく  
せとまくられもとくまくらゆどくゆどくゆどく

らく  
おやこの中のゆゑ母

くはくかくあくまくらゆどくゆどくゆどく  
おづくのほうあくまくらゆどくゆどくゆどく  
あまくまくらゆどくゆどくゆどくゆどく

今後とぞまことに

どうぞやの様中納戸母

あすかひもあらむ管井のばくとうをもるべくひも  
拾百哥合八十六書

左大河津あらひ少佐つりやうてこくはる

あへふ候ませぐる

あてつるの津の津

まくらあくよす一筆のみ六月の初日申月の初日

津づ

筆の初月の初日申月の初日申月の初日  
ハ本

ハ本

とあかうやと小管ふせふくとあるし

けよめ

あれかよめあよめ

まくらあくよす一筆のみ六月の初日申月の初日  
タ務のきたにつゝも本の物ち納戸の筆と  
てててててててててててててててててててててててて

横笛

筆かよめあよめ

百番哥合八十七書

風葉和琴集卷之十八

丹窟書

十八之一

新二

仁和の溝時せきしにじ季を此と拂はせたる  
おほくわらうらまよ拂ふせしも

あすせあひのまを拂つてお  
せき川のたえぬまうれなまくふさを拂とめんてりも  
拂つて た大臣  
せき川の古川を拂とめんてりもせのほはまつてりも  
入道ち罪にを改大臣のさうの家より語あり  
こうちせき川を拂とめせ給ふる

有ゆる乃東宮

大み川あそびの底よも拂ふせりせよすよ又うそ  
冷鳥花より幸あそびゆすよもの中ねふて青  
に本海波すくよさくく山に住ゆるを拂てはり  
多小波の中ねすくよや納ふよも下ふ集六  
じひつゆくゆるニ子のまのや納む  
もとものふのうそくねと住むがくとくはまかまうし  
うそくせり幼きふくまうて

罪ふ

詔とふまのいとくに住むよも下ふ集六

丹鳴集書

おおぬるのまへのま極の家よ津ゆく有る  
小むづ拂らむせう拂らむのまわらう乃  
うすかよほひくのまうあよよシモトモ  
よよせ旅る。うるおとみ拂う  
樓上下

春うきハ我被うてまくはいふがくうる  
をすくめよつてのやまくす日よりうる  
一きのねのねわ本くもあアふくよし

あ内でのゆ

川ゑーすのねをようるまのまよもあひうる  
ばうどくのたはうりありれうせ旅くこの居

同上

ほうすく民アドふをうる。トトあんおレセ

キモキモセ

そ大にあはくまく。トふせはくふともあい  
くねくねうすちのまくらうとよめ

おもー夜穿相

菊宴

海うきすくじくまむ浦のねをかわいふとまく  
いのうの弾幼きつてくのまうのまやくくわう  
はくかくうふあくまくとくとくとくとくとく

まくとく  
かくやむ

物語

丹鳴叢書

きのむくすやーなるもこりてせども

伊ー軍に少方

物語 うぬまくもあさきのほのひよおもねの風かたひをくじ  
軍は少方のひくわくいとまくらる舟乃

きふくよも わふーあま

同上

物語 伊ーのあやまかしてはまとうとかくち神とぬへやけ  
あくあくふくへまくへてまくへあくふくへまく  
アカヒル御舟よりあまのまくまくどくあまの  
アカヒルおなじよかのアマテラスアマテラス  
アカヒルおなじよかのアマテラスアマテラス

吹上上

アシロサ納ムス

アシロサのアシロサハアシロサモアシロサハアシロサ  
おもー車ひくへ、アシロサモアシロサハアシロサ  
アシロサモアシロサハアシロサモアシロサハ  
こうのいと入る

紀伊ちまく称松女

同上

物語 天のあやくもあやくあらみのまくまくこハアシロサ  
くもあく車ひく代のアシロサモアシロサ

アシロサ  
アシロサのすばれ亮

草木よもやまかのシテあらあらまくらる神のまくら

うゑー 内記のむーと

あくまどうすへとひあつて、まうりあくま  
あくまの女のかよへて、まうりあくまの女  
ふあくまの女のかよへて、あくまふ

うゑーおほくまうらと  
うゑーおほくまうらと、神のうらと  
くへつまうらと、見合ーおほくまうらと  
まうりあくまうらと、あくまうらと  
あくまうらと、あくまうらと

うゑーあくせの藏人ナ

凡

うゑーとあくまうらと、ほもえがまほくまうらと  
あくまのうらと、あくまうらと  
ほくまとねう縦語のあくまうらと  
あくまうらと、あくまうらと

あくまうらと

西の鳥乃あくま

うゑーとあくまうらと、ほもえがまほくまうらと  
まうりあくまうらと、まうりあくまうらと  
うゑーとあくまうらと、うゑーと  
女浦まくまのうゑーと、うゑーと

女浦まくまのうゑーと

あくまうらと、あくまうらと、あくまうらと

船の上に立つて、おおきな波が海のままで  
立派な船の上に立つて、舟のままで  
立派な船の上に立つて、舟のままで

物  
記

拾百哥合五書

称さぬ女流歌

物語

卷之三

あへとやうくはまの内大臣少翁

おのづかに、その内小室  
あまつてはるはるの舟とまつてはれ被ふきつ  
なふれすかへあひく人の翁とひきか  
ふきかへあひく人の翁とひきか

新古今雜下

朗詠遊女

のよきをあらひよせとてあやのこがれは痛むる事  
むすめの女郎もたねふる名うららかにゆゑくもむか  
くふそめ代りくわらひせらばねを後女郎年  
十数の頃の事なりたねのゆふつりゆ

## 女すみの内大臣

かのまへやがのむのむにれ、いづきうへてじまくおひだ  
わのかへせすけらうみやくじく  
やあふ、そのゆのせんじと帝姬文  
いもつむよのめかふれいりくのまゐるに  
じせよのほくちほもぢく

かのまのまくま

かのまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
中納言のかへせすけらうみやくじくじくじくじくじくじく

よやくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま

よまくのまくまく

よもよあくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
よもよあくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
よもよあくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま

あくまくのまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま

くちにいきまくらすとまく

せぬ源大納言のむすめ

みだらしがめうらうおのあこやあくまの我をもらひ

くすくもとよの娘をわすれのうかく

せんやねほの川下へあとのとよかくまくしるのうかく

まいへへ 我ののむかのむち女

あつまはひのむかのむかとあくべのむかとむかのむ

すゆよそかのむかとよかのむか

淳舟

里のあと我弟のせんせのうちおとづりたま

風雲集

うとうかみやくじ

うとうほの花の女郎

きらうてアヌヤアヌヤすがわおとうち川の豆餅

あつとふまくアヌヤアヌヤのほどうよやすみ

うとうほの花の豆餅

しらぬまつねやまくらうの豆餅があるよと傳

うとうほの豆餅があるよと父の大納言のむかとひ

うとうほの豆餅

住吉算に少方

我をもとがうれゆあむかの花にうめくがくじよ

丹鷗長書

まゝいへり うみかわゆのえ

手羽白

と物語百

身となすて後の川のまかせよちがくに津に  
小舟のあまくつとくもむくもくすらふく  
きのこもかひてキララ波くもかく  
もかくせよかじのうせよかねむすのれ  
詰百音合六十五番

同上

一のじてぬまくけむちよがくくよが  
くもととのわくにもくもくのふあひくこと  
ほぐる はなはな大幼きの女

ゑぬてみのうくほくもくれくもくふくやつほ  
父傳子をいこよもあとおとめくはるうつうち

よかくはくはくはくはくはくはくはくはくはく  
あといひあいのれいを

うみのむのむの女津

さくとさくとさくとさくとさくとさくと  
せうとせうとせうとせうとせうとせうと  
けくとけくとけくとけくとけくとけくとけくと

一のひゆのゆる

ひまとけ幕とくおもひゆのゆくとくのゆくとく  
ほくとくのちがくとくのちがくとくのちがく  
ゑのくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

かのよみがへりてはせぬるをよみせ  
まわる

ゆきやの涼風拂ひ

何うといひておもひきのやうのうじへらす  
捨百音合十九番

まわるまわるまわるまわるまわるまわる

くわくわくわくわくわくわくわくわく

ひづねの舞ふ

かのよみがへりてはせぬるをよみせ  
まわる

あく

大納言

かのよみがへりてはせぬるをよみせ  
まわる

ほむとおむとおむとおむとおむとおむとおむと

まつゆの称ぞまつゆのまつゆせめ

よし

拂

モホ

ひすのまつゆがまつゆのまつゆせめ入る  
拂よ

ひよのまつゆを拂ふなつまつよとおむ

さ

月

のまつゆのまつゆのまつゆのまつゆのまつ

たむのまつゆのまつゆのまつゆのまつゆのまつ

のまつゆのまつゆのまつゆのまつゆのまつ

おまつゆのまつゆのまつゆのまつゆのまつ

物語四

まやの肺をもよ  
ふくらむるのをせんと證するに

蜀山よりよみがへりおもてはる日本  
の中納言がおまつでいふ

あか Rivera 縣后

同一  
そのうちふくらむて入一がくよほと人のたてゆゑに  
捨百骨食七番

さのうすまのうつすなめ女のもとふつうの  
うしの中納言室を  
藤原君  
うしのとくひぐよめのゆくひとくわく  
きとのれんとおもくはるまことある

うしの中納

ひづかまふらぐくさむじきふくらむるのほなまむさむ  
さあの方のまだね

まくまくまく神の風やさくわくわくまくまくまくまく  
まくまくのうねくふくまくまくまくまくまくまくまく  
たくふくたくたくたくたくたくたくたくたくたくたく

扇あつの涼中納言女

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
たくたくたくたくたくたくたくたくたくたくたくたく  
たくたくたくたくたくたくたくたくたくたくたくたく

## むすめのやとの女院

住みゆくやうのあともあれなかほどのあもしろさあや  
ゆよへとおののちとせんじてしもていろ  
のつまがくらの日ひにねまよわへ入候

源氏のわ柄たたき少方

換柱

くらやうのあだのね、我と志るあ  
ざまもふくさけり、うらむらはあくわうけり  
小ちふあらはのむらよがくつる

あひつる

物語三下

百番哥合七十番

なれのむちをかわすのまきねじもとを柄へぬ共

きくすすむすこゝるやばのあらううすとあうて  
ほくよくもとへあらすむりくつるよあく  
ふくがくつる。あらの后え母  
のくよふかわつまのくわむきよあらかくらむ  
たのほほいまへうそ一束の家よはすまぜあつ  
うれしきけをはつる

うれしきけをはつる

藏元中

ちのすすむすこゝるやばのあらううすとあうて  
おるよくもとへあらすむりくつるよあく  
まくらうすくわへとあらううすとあく

おまけやうへもあつてゐるゝものとやう  
まへりよしむりへすまへりよしむ

同朱在危女一官捕案

同下

おまけのすまへすまへるゝものとやう  
まへりよしむりへすまへりよしむ  
まへりよしむりへすまへりよしむ  
まへりよしむりへすまへりよしむ  
まへりよしむりへすまへりよしむ

おまへ中納主の小方

おまへのすまへすまへるゝものとやう  
まへりよしむりへすまへりよしむ  
まへりよしむりへすまへりよしむ

おまへのすまへすまへるゝものとやう  
まへりよしむりへすまへりよしむ  
まへりよしむりへすまへりよしむ  
まへりよしむりへすまへりよしむ  
まへりよしむりへすまへりよしむ

一品内親王家三位

おせとおまへのすまへすまへるゝものとやう  
まへりよしむりへすまへりよしむ  
まへりよしむりへすまへりよしむ  
まへりよしむりへすまへりよしむ

ひのすのさくわゆがよしとすよのとくわゆ  
とくのほうがよしとすよのとくわゆ  
あはらのまのきのとくわゆ  
あはらのまのとくわゆ  
山寺もかたてのわふはりのとくわゆ  
やまとまつめのとくわゆ  
おもむきのとくわゆ  
せとのとくわゆ  
せとのとくわゆ  
せとのとくわゆ

うのまつめのとくわゆ

風景

うとくわゆ

うとくわゆ

中支

うとくわゆ

中支

中支のとくわゆ

後

中支のとくわゆ

中支のとくわゆ

中支のとくわゆ

源氏のとくわゆ

中支のとくわゆ

横笛

おふ一浪鬼虎沸が

せといふくもよがくわやくわせとみやうりる  
擣姫 拾百奇合十九番

沸うへ

同上

あふくもよがくわやくわせとみやうりる  
百奇合十一番

あふくもよがくわやくわせとみやうりる  
鳥のねむすみとくわせとみやうりる  
従角

あふくもよがくわやくわせとみやうりる  
と物語

あふくもよがくわやくわせとみやうりる  
と物語

あふくもよがくわやくわせとみやうりる

風景

谷のねむすみとくわせとみやうりる  
入道屏にむかひよくすれ経借者一任多  
けり 里のまづりもくまくよくせら

ける

風のまづりの沸が

あふくもよがくわやくわせとみやうりる

沸うへ

入道屏にむかひよくすれ経借者一任多

えきのまづりの沸うへとむかひよくすれ  
セヨリのまづりをもすものかしはるかに中  
まづり熱ふと付ふふと付ふる

称さずの入道屏に太政大臣

トハシテテハシドモアリテ子の風葉和哥集以三本對校了

右風葉和哥集以三本對校了

丹鶴叢書目錄

丁未帙

正中御飾記一卷

内宮御神寶記一卷

右二部原本丹鶴書院蔵

後水尾院當時年中行事二卷

右原本村田春野蔵

春記三卷 同裏文書

右原本中山備前守信守朝臣蔵

九條右大臣集一卷

御堂閑白集一卷

右二部原本丹鶴書院藏

藤原家經朝臣集一卷

右原本仲田顯忠藏

和泉式部續集二卷

右原本井上文雄藏

源重之女集一卷

小侍従集一卷

殷富門院大輔集一卷

右三部原本仲田顯忠藏

風介津連奈幾物語一卷

右原本新見伊賀守正路朝臣藏

已上捲十二部十五卷或今或合為十一

本

戊申帙

釋奠供物圖一卷

諸陵雜事注文一卷

雜筆要集一卷

右三部原本村田春野藏

春記十一卷

右原本松平越中守定猷朝臣蔵

室町殿春日詣記一卷

右原本木村田春野蔵

掠弓藤割次第一卷

諸鞍日記一卷

九條家車圖一卷

西園寺家車圖一卷

右四部原本田口千穎蔵

萬代和歌集二十卷

前參議教長卿集六卷

濱松中納言物語四卷

乙寺縁起一卷

右四部原本丹鶴書院蔵

已上總十三部五十卷為三十九本

乙酉帙

侍中群要十卷

右原本松岡明義蔵

信實朝臣集一卷

草根集十五卷

右二部原本丹鶴書院蔵

繪師草紙一卷

右原本小田切直藏同人縮写之

蒙古襲來繪詞三卷

右原本高島千春藏同人縮写之

已上捲五部三十卷為二十四本

庚戌帙

三中口傳五卷

今昔物語自夢廿二至第卅一二十卷

忍音物語一卷

右原本丹鶴書院藏

已上三部十六卷為二十七本

辛亥帙

嗣刺

日本書紀二卷

東大寺要錄十卷

風葉和歌集十八卷

今昔物語弟十二二卷

右四部原本丹鶴書院藏

已上捲四部卅二卷為廿本

壬子帙

嗣刺

# 丹鶴城藏本

賣弘所

京都三条通井屋町

出雲寺文次郎

大阪心齋橋通安堂寺町

三都書肆

江戸芝神明前

秋田屋太右衛門

岡田屋嘉七

同鍛冶橋五郎兵衛町

中屋徳兵衛

